



週刊ポスト

「世間の常識とかけ離れている」という新聞・テレビの常套句。最近はおつぱら大相撲に向けられているが、しかし官房機密費に目を向ければ、むしろマスコミこそふさわしい言葉ではないか。しかも、それは「世界の常識」からも、遠くかけ離れているのだ。

*

官房機密費問題をかたくなに無視し続ける大マスコミに対し、人々の苛立ちは高まる一方だ。

7月4日、朝日新聞社である「事件」が起きた。休刊した論壇誌『論座』のネ

もらったらクビと 絶句した

ット版「WEBRONZA」を立ち上げることにになり、その創刊記念として開催されたシンポジウム。その場にパネラーとして出席した朝日新聞の曾我豪編集委員（政治部出身）が、「糾弾」されたのである。

シンポジウムはネット動画のニコニコ生放送で中継されていた。
おもむろにパネリストの吉田徹・北海道大学准教授が「官房機密費うんぬん」ということについて、メディア人としてひと言お聞きしてもいいですか？」と話を振ると、曾我氏は次のように応じた。

「私はもう逆にいうと、どんだん明らかにしてほしいと本当に思います」「マスコミに対するお金が出てくるのかどうかわかりませんが」「週刊誌を読むとです、封筒の中に現金が入っていて貰ったっていう話。そんな時代があったのかと本当、正直思いますけど」

すると、会場から質問の声が上がった。
「大手メディアが報道を避けているように見えるが、その点に関してはどう思っているのか？」

「朝日新聞側として、どうも客観的というか、他人事のように聞こえる。どうコミットしていくのか表明してほしい」

曾我氏は慌てて弁明した。

「僕たち新聞記者の仕事っていうのは、やっぱり権力は何をやっているのか、実際どういう金の使い方をしてるんだらうと、それを明らかにするのが仕事であって。個々の記者がどうこう、朝日新聞が内部調査するかどうかということよりもですね、官房機密費の使用方というのをオープンに権力側がすべきだと思うし、その取材をしていくのが自分たちの仕事であるという話を、さっきしたかったんです」

ところが、この発言がさらなる波紋を呼んだ。ニコニコ生放送のコメント欄に、視聴者からの辛辣な書き込みが殺到。プチ炎上状態になってしまったのだ。

「いさぎよくねーな」へ今オープンしろよ」へだから新聞自らが内部調査を（マスコミはなんでやんないんだよ！）へ責任逃れしてるでしょ（自浄能力がないってことですね）へ自浄能力がないマスコミが何を叩くとは片腹痛い」